

チームけせんの和 だより

発行:陸前高田の在宅療養を支える会（チームけせんの和）
〒029-2205 岩手県陸前高田市高田町字太田512-2（岩手県立高田病院内）

2025年
VOL.43
8月号

チームけせんの和によせて ～より良い在宅療養推進のために～

チームけせんの和 会長
陸前高田市国保二又診療所
所長 岩井 直路（いわい なおみち）



人間にとって「自分らしく生きたい」と望むことは、ごく自然な感情です。歳を重ねても思いは同じでしょう。体が弱ってきたり、病気になったりして、行きたい場所に出かけられなくなった時、皆さんにとって「自分らしく生きられる場所」はどこだと思いますか？

それは「住み慣れた家＝我が家」と答える人が多いのではないのでしょうか。

在宅療養とは、住み慣れた家で医療や介護を受けながら療養する生活スタイルで、通院が困難な場合でも、訪問診療・看護や介護サービスなどを利用することで、医療や日常生活の支援を受けることができます。より良い在宅療養により、住み慣れた地域で、家族や地域の人と接しながら、最後まで自分らしく生きることができるのです。

昨年度は皆さんの協力により、救急医療情報キット作成、在宅療養ガイド「より良い在宅療養のために」作成、人生会議

（ACP）推進の3つの事業を進めることができました。チームけせんの和としてはものすごく頑張ったと思いませんか。少子高齢化／人口減少等により医療・介護のニーズが大きく変わり、陸前高田市においても2040年以降まで「在宅医療の必要性」が高まると予想され、昨年4月に陸前高田市が「在宅医療の強化」に向け大きく舵をとり背中を押してくれました。

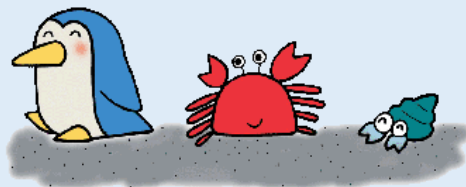
しかし「経済的に豊かでないから、我が

家では在宅療養は無理」「介護する家族が少ないからウチはだめ」という声もあり、在宅療養に前向きな気持ちになれない市民も多くいます。今年は、市民が在宅医療・療養を正しく理解しもっと身近なものとして考え、積極的に利用してもらえるように、昨年の事業を市民に浸透させていくことが必要と考えています。ビジネス的に言えば在宅療養の依頼主（クライアント）側の意識を変革していくことです。

一方、疾患予防、健康寿命延伸の観点から訪問歯科・看護・リハ・介護サービス等をもっと利用してもらいたいというメンバーからの前向きな要望もあります。そんな働きかけもしたいですね。

市民の一人ひとりがより良い在宅療養によって、人生の最終段階まで自分らしく生き、少しでも良い人生を歩むことができればと、医療・介護に携わる私たちは願っています。

これから2年間会長として頑張りますので、皆さんのご協力よろしく願いいたします。



「チームけせんの和」 総会報告

令和7年5月20日（火）市役所において役員会開催。今年度の運営について協議・確認。

令和7年5月28日（水）陸前高田市コミュニティホールにおいて総会開催。（参加人数59名）

議事では、令和6年度事業報告及び収支決算、令和7年度事業計画・収支予算について協議し、原案通り承認されました。

令和6年度の新規加入事業所は、叶指定居宅介護支援事業所、社会福祉法人愛育会ひかみの園の2事業所でした。

今年度の事業計画

1. 研修会：年3回（5月、10月、1月）
2. 市民啓発活動：
 - ①劇団ばば☆公演活動
 - ②市民参加の健康増進活動の推進
グラウンドゴルフ大会（ばば☆カップ）
 - ③ACPの啓発活動
3. 広報活動：会報「チームけせんの和」だよりの発行 年3回（8月、12月、3月）
4. ワーキンググループ活動の継続
 - ①救急医療情報キットの作成と7町（矢作地区除く）へキットの配布
 - ②ACPの普及活動
 - ③市民向けガイドブック「よりよい在宅療養のために」の作成、変更・更新作業
完成したガイドブックを市内各所に設置

その後役員改選も行われ、事務局案で承認されました。任期は令和9年3月31日までとなります。（役員名簿は右記に掲載）

令和7年度役員紹介

役員名	氏名	区分
会 長	岩 井 直 路	国保二又診療所
副 会 長	吉 田 裕	歯科医師会
	菅原由紀枝	栄養士会
役 員	鷺 浦 章	医師会
	大 坂 敏 夫	薬剤師会
	阿 部 啓 二	県立高田病院
	中田留美子	県立高田病院看護科
	佐 藤 寿 裕	訪問看護ステーション
	下川原裕子	デイサービス
	千 葉 祐 志	介護支援専門員連絡協議会
	佐々木裕紀重	歯科衛生士会
	草 別 拓 郎	リハビリテーション
監 事	佐々木 厳	相談支援専門員
	入澤美紀子	介護老人保健施設
	柴 田 夕 子	介護支援専門員連絡協議会
顧 問	石 木 幹 人	
	大和田剛史	広田歯科医院
事 務 局	県立高田病院事務局	

劇団ばば☆のお知らせ

新団長紹介

陸前高田市社会福祉協議会の「小林里美さん」です。
皆さん、どうぞよろしく
お願いいたします。



※併せて新団員を募集しています。
興味のある方、ぜひご応募下さい。
お待ちしております。
応募される方は下和野団地1階
「みんなの相談室」TEL0192-22-7366
までご連絡をお願い致します。

医師役の
小林さん
です！

※前団長佐々木康裕さん、長い間ありがとうございました。
これからもよろしくお願いします m(__)m



活動報告 令和7年度第1回研修会

テーマ：「ワーキンググループ活動報告」

日時： 令和7年5月28日（水）

場所： 陸前高田市コミュニティホール

今年度第1回目の研修会では、ワーキンググループ活動の報告会が行われました。
各グループの発表内容をご紹介します。

ワーキンググループ1「救急医療情報キット作成」

発表者：国保二又診療所 所長 岩井 直路 先生

- ・ 陸前高田市救急医療情報キットの目的・趣旨
- ・ 医療情報用紙の記入方法・記入時のサポート、救急医療情報キットの作成手順について
- ・ 今後の課題

今年度の取り組み 市地域包括支援センターが取り組みを引き継ぎ、医療情報キットを市民（75歳以上の高齢者世帯）に配布（順次）。



ワーキンググループ2「ACPの普及」

発表者：松原指定居宅介護支援事業所
所長 佐々木 康裕 氏

- ・ 市民向け「人生会議」リーフレットの作成、全戸配布
- ・ もしバナゲーム体験会&生きるノート作成講座の開催
- ・ 関連講座への参加を通しての自主研修

今年度の取り組み 市のACP関連講座への協力、ACP講座の開催（年1回、内容は昨年度と同様）、関連団体等へのリーフレットの配布、メンバー各自の自主研修等を行いながらACPの普及を図る。

ワーキンググループ3 市民向けガイドブック「よりよい在宅療養のために」作成

発表者：吉田歯科医院 副院長 歯科医師 吉田 重之 先生

市民にとってわかりやすい内容、具体的な内容のガイドブックを目指して作成しているが、このパンフレットによりすべてを網羅することは困難である。最終的にはそれぞれ個々の患者さん、利用者さんの状況によって変わってくる。それでも本ガイドブックが市民に普及し、一人でも在宅療養を受ける人が増えることを期待している。その結果、高齢者になっても安心して暮らせる町につなげたい。

今年度の取り組み 「よりよい在宅療養のために」ガイドブックの作成。変更、更新作業。完成ガイドブックの設置。



事業所紹介

新規加入事業所さんです。

障害者支援施設 ひかみの園 園長 吉田 和正

ひかみの園は昭和53年4月に開設し、障がいを持った方の入所を受入れて居住の場や食事、日常生活上のお世話や介護などを提供しています。

日中のケアは日中活動支援の「生活介護」として提供され、それ以外（夜間等）の支援全般は「施設入所支援」として提供しています。また、短期入所事業を行っており、必要な介護や介護者にとってのレスパイト（休息）サービスとしての役割を担っています。

利用者様の平均年齢も上がり、日中活動などの課題もありますが、一人ひとりの願いに応えられるよう日々の業務に努めています。

お問い合わせ 電話：0192-55-3200 FAX:0192-55-3202



訪問看護ステーション さくら 統括管理者 菅原 みち子



訪問看護ステーションさくらは、陸前高田市・大船渡市を中心に、24時間対応体制で在宅療養を支援しています。小児・精神疾患・神経難病・看取りまで、幅広い医療的ニーズに対応可能で、訪問リハビリにも注力。看護師・療法士など多職種が連携し、個性の高い専門的ケアを提供しています。

併設の居宅介護支援事業所・福祉用具貸与事業との連携により、医療と介護を横断した支援体制を構築。専門職の力が活きるチームケアを強みに、地域に根ざした質の高い在宅ケアを今後も展開してまいります。

お問い合わせ 電話：0191-48-3327



「グラウンドゴルフ大会 ばば☆カップ」のお知らせ



日時：令和7年10月5日（日）

場所：旧矢作中学校グラウンド

参加者：プレーヤー及び運営応援スタッフを募集します。

※ 詳細は後日お知らせします。よろしくお願いいたします。



編集後記

今年は自然災害の多発や例年にない暑さが続いています。皆さまお変わりなくお過ごしでしょうか。今年度も令和7年度総会・第1回研修会と順調にスタートし、皆さまのご協力のもと今年度第1号の会報を発行することができました。昨年度に続き、今年度も様々な事業計画が予定されています。今後も皆様からのご協力をよろしくお願いいたします。